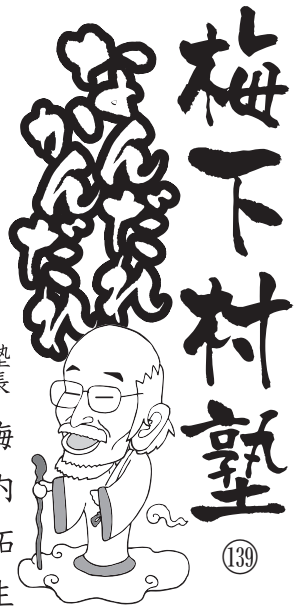


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

139

(考える葦とそよぐ葦)
クラシックバレエや、オリンピックなどのスポーツの世界で活躍している日本の若者の報道を見聞きしていると、若者たちは自分が生まれ育った自然と社会環境から一つひとつ自分の世界に取り入れて、咀嚼して世界に向かって表現していることに感動させられる。

江戸末期に開国し、明治時代から、押し寄せる西欧文明の波に翻弄されて百数十年、ようやく世界の文明の風にとよぎながら自分で考えることができる若者が日本に育っていることを感じ取ることができる。「人間は考える葦である」という言葉は17世紀のフランスの自然哲学者、思想家、キリスト神学者のブレイズ・パスカルである。そよぎながら考

え、考えながらそよぐ時代を担う若者が日本に育っていることを目の前にすると心が明るくなる。その明るい気持ちは彼ら若者が「そよぎながら考え、考えながらそよぐ」中で、社会に心を開き、社会とつながりながら努力している姿の中にある。人類の歴史の中で、人間は社会で生き続けるためのいろいろな「徳」を言葉にしてきている。古今東西の歴史は、誠意、まこと、おもいやり、正直など、これら「徳」を表現する多くのことを身につけてきた。釈迦のことばと世界、ソクラテスのことばと世界、老子や孔子のことばと世界、これらの奥に潜んでいる魂と心は(考える葦とそよぐ葦)時代に受け継がれて、新しい世界に生まれ変わっている。日本のマスコミは世界のマスコミ

に潜んでいる「告げ口」や巧妙な詐欺の手法を警戒すべきである。このためには、古今東西の「歴史とことば」の世界の(考える葦とそよぐ葦)になる努力が必要である。論語にある孔子のことば「朋、遠方より来るあり、亦樂しからずや」、心と魂に深く染み通ってくる(考える葦とそよぐ葦)の世界である。

(響き合う)
「第一中学校3年生の作品の世界」
秋の山 歌声響く 文化祭

中3女子 全校で大輪映かせた 一中祭
中3女子 秋の日に 感動届けた 一中祭
中3女子 文化祭が終わると卒業と進学が待っている。いろいろな思いが湧いて来る時期である。クラス全体で打ち込んだ文化祭の発表と友情が響いて来る中学

3年の時である。
返句

秋の空 友とかたらい 歌風に

(成長と成熟の狭間)
一中祭 自ら作る 達成 それに伴う 寂しさもまた

中3男子 仲間との 絆深まる 文化祭 共に過ごす時 後わずかたり

中3女子 中学3年生の時期は 成長と成熟への変わり 目で、大人の世界へ移る 複雑な感情が芽生える 時期でもあります。

返句
達成感 寂しき深く 文化祭

(希望と夢)
秋深し 燃ゆる山々 思いはせ

中3男子 秋空に 枯れ葉ひらひら 落ちるけど 春への夢は また高き花

中3男子 秋の紅葉で燃える山 を見ると高校進学の夢と希望が湧いてきます。しかし不安も少し 混じっております。

返句
山紅葉 枯葉につなぐ 春の夢

(秋の味覚)
栗ご飯 食べる童の 笑う顔

中3男子 冷える朝 秋の訪れ 鮭の味
中3男子 秋は老若男女の全ての食欲の季節です。

返句
栗ご飯 秋の味覚や 鮭の味

中学3年生の時期は (考える葦とそよぐ葦)の体験を迎える時期ですね。中学3年生の詠作にこの心と魂が表現されております。

(東海新報記事から)
2月11日の世迷言は 東京都知事選挙に出馬した細川元首相とそれを応援した小泉元首相のコンビに関して述べられている。彼らの選挙の負因は過去の栄光にすぎたことであると述べている。人間は誰でも老年を迎える。老年になれば老年の世界で生きなければならぬ。古今東西の歴史上の偉人たちは自分の年齢と社会に通じる言葉と行動を遺している。「老熟」という言葉がある、(考える葦とそよぐ葦)とはこの老熟につながっている。